

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」に係るワーキンググループの活動状況

1 参加団体

	団 体 名		団 体 名
1	精神障がい者自立支援センター	9	福祉部 福祉まると相談課
2	東京足立病院	10	福祉部 生活支援推進課
3	成仁病院/成仁相談支援事業所	11	都市建設部 住宅課
4	あしたば相談支援センター	12	中央本町地域・保健総合支援課
5	星月夜	13	竹の塚保健センター
6	相談支援センターくらふと	14	江北保健センター
7	東京都立精神保健福祉センター	15	千住保健センター
8	福祉部 障がい援護課	16	東部保健センター

計 16 団体 19 名

2 今年度のテーマ

長期入院者の調査

昨年度は書面調査を実施。今年度は訪問による対面調査を実施。

3 活動状況

(1) 日程と内容等

	開催日時・場所	参加者数	内容
第 1 回	5 月 30 日 (木) 9 時～11 時 30 分	20 名	・長期入院者書面調査結果と今後の取り組みについて ・精神障がい者の住まいに関する課題について
第 2 回	6 月 25 日 (火) 9 時～11 時	20 名	・精神障がい者の住宅受入れの課題について ・他区の障がい者に対する住居確保支援について
第 3 回	8 月 9 日 (金) 9 時～11 時	18 名	・訪問調査の対象者選定 ・調査項目、調査員、調査方法決定
訪問 調査	8 月 27 日 (火) 10 時～11 時	13 名 調査員のみ	・聞き取り調査時の注意事項について確認 ・聞き取りマニュアルを作成
	9 月 計 11 回	13 名	・4 病院 53 人の長期入院者に訪問調査
第 4 回	10 月 29 日 (火) 9 時～11 時	18 名	・訪問調査結果について共有と課題検討
第 5 回	11 月 28 日 (木) 9 時～10 時 45 分	20 名	・令和 7 年度のワーキンググループの取り組みについて

(2) 長期入院者訪問調査について

目 的：長期入院者の実態を把握し、地域生活を送る上での課題やニーズを理解し、地域でその人らしい生活を安心して送れるように、本人のニーズに応じた、関係者・関係機関による多面的かつ重層的な支援を提供できる体制を整備するため。

実 施 期 間：令和6年9月

実 施 病 院：綾瀬病院 大石記念病院 大内病院 東京足立病院

面接対象者：上記病院に1年以上入院しており、令和5年度の書面調査でご本人の退院への気持ちが「退院への意向が強い」「意向はあるが消極的」「意向が無い」と答えた人。
「退院への理解が難しい」と答えた人は除いた。

調 査 人 数：上記面接対象者73名中53名

調 査 方 法：区役所職員1名と事業所等職員1名の2名体制
面接冒頭に、調査の目的、個人情報を守られることや話したくないことは話さなくて良いこと等を伝え、口頭で入院生活と今後の希望等の思いを聞き取った。

調 査 結 果：聞き取ったこと（詳細は別紙）と主な回答要旨

【住まい】

安心できる入院生活から離れることの不安あり。地域でのサービスは伝わっていない。

【お金】

不安はあるが具体的な金銭管理のイメージに至っていない。

【相談相手】

入院中はスタッフが常にいるが、退院後は身近な相談相手がいない。
誰に相談して良いかわからない。

【通院】

精神面のみではなく身体面での心配もある。

【全体総括】

書面調査では分からない長期入院者の現状を推察することが出来た。
長期入院の理由は様々であり、入院が長期になると、ご本人も退院のイメージが付きにくくなること、生活能力の把握がしづらくなること等が分かった。
調査前には、ハード面の問題が多く出てくると思っていたが、ソフト面（病状、家族関係、本人の意向、退院後の生活のイメージがつかない等）での課題が見えた。

(3) 今後の長期入院者に対する取り組みについての意見

- ・ピアサポーターの活動を組織化することが必要である。
- ・生活能力を把握できるグループホーム活用型ショートステイが足立区からは遠いので、病院内で退院プログラムなどが試せると良い。
- ・病院の居心地は保ちつつ、地域の魅力を伝える。
- ・地域でしかできないこと、情報を提供できると良い。

4 来年度のワーキンググループについて

長期入院者調査の結果を基に、長期入院者の地域移行の促進に向けた活動を行っていく。
ピアサポーターの活用、ショートステイ事業の検討等、実施・整備検討をしていく。
その他、精神医療部会で意見を募り、ワーキンググループの活動につなげていく。